

小学校社会科における読解的歴史教材構成論

教科・領域教育学専攻
社会系コース
M07183K
茂崎江里子

I 研究の目的と方法

1 研究の目的

小学校社会科における歴史学習のほとんどは歴史の人物の偉大さを感じ、共感して終わるという授業であり、歴史を通して社会を見る目を養いにくい傾向にある。

歴史学習は、直接体験するということが難しく、資料を通して歴史を理解することが中心になってくる。そこで、小学校社会科において、読解的歴史教材構成論を確立し、これを検証するうえで、子どもがどのようにして歴史を理解し、独自の解釈をするかを解明する。そして、歴史学習をもとにして現代へと転移させ探究することのできるためにはどのようにして教材を構成していけばよいかを考え、それをふまえて授業モデルを提示することを目的とする。

2 研究の方法

- (1) 小学校社会科歴史学習の現状と課題を明らかにする。
- (2) 教科書と歴史学習論の先行研究を読解的視点から分析することにより、歴史教材構成の枠組みを明らかにする。
- (3) 小学校社会科歴史学習の教材構成と子どもの知識の習得の過程から、小学校社会科歴史学習を類型する枠組みを明らかにする。そして、その枠組みをもとに、実践事例を類型化することによって、小学校社会科歴史学習の特性と課題を明らかにする。
- (4) 類型化によって明らかになった小学校社会科歴史学習の特性と課題をふまえ、小学校社会科における読解的歴史教材構成を考察する。

II 論文構成

序論

- 第I章 小学校社会科歴史学習の現状と課題
- 第II章 社会科歴史学習の教材構成論の類型化
- 第III章 社会科における読解的歴史教材構成の性格と意義
- 第IV章 社会科における読解的歴史教材構成論
- 終章 研究の意義と課題

III 研究の概要

1 小学校社会科歴史学習の現状と課題

小学校社会科歴史学習の現状については、現行の教科書の分析と歴史学習論の先行研究を行い、明らかにした。

教科書の分析の結果からは、現行の教科書のほとんどが歴史上の人物への共感的理解と知識の習得にとどまっており、PISA型読解力での「熟考・評価(探究)」まで知識のレベルを引き上げるには、教師の授業での働きかけや工夫が必要になってくることが明らかになった。

歴史学習論の先行研究では、子どもの興味・関心を中心に歴史学習を構成し、人物や文化遺産を中心に理解を深めており、歴史学習で学んだことを現代の社会へ活かすという視点が欠いているということが明らかになった。

これらの現状から、歴史学習が知識注入で、実感しづらく、熟考する時間がなく、人物中心で共感型であり、調べ学習重視であるということが歴史学習で問題となっている。歴史学習を通して、時間の流れに伴う人々や社会の変化を俯瞰することができ、それを生活や社会、未来へ活かすという、歴史学習本来の目的が損なわれつつあるという課題が明らかになった。

2 社会科歴史学習の教材構成論の類型化

授業実践事例を類型するために、教材構成と知識の形成過程の視点から枠組みを考察した(表1)。

教材構成の視点からは、歴史上の人物の偉大さや歴史的遺産の素晴らしさに共感する「共感的教材構成」と、自分なりの枠組みで文章や図、表を読解して、因果関係や法則性を解釈・推論し、生活や人生観に活かす「読解的教材構成」の二つを挙げた。

知識の形成の視点からは、PISA型読解力の構造をもとに、情報の取り出しに該当する「知識習得」、情報の解釈に該当する「知識活用」、情報の熟考・評価に該当する「知識探究」の三つを挙げた。

以上の観点から、「共感的知識習得型教材構成」、「共感的知識活用型教材構成」、「共感的知識探究型教材構成」、「読解的知識習得型教材構成」、「読解的知識活用型教材構成」、「読解的知識探究型教材構成」

表1 小学校社会科歴史学習の類型

知識の形成過程 教材構成	知識習得	知識活用	知識探究
共感的教材構成	共感的知識習得型教材構成	共感的知識活用型教材構成	共感的知識探究型教材構成
読解的教材構成	読解的知識習得型教材構成	読解的知識活用型教材構成	読解的知識探究型教材構成

の六つの類型を設けた。

3 小学校社会科歴史学習の授業実践事例の分析

表1の枠組みに従って、小学校社会科歴史学習の授業実践事例30事例の分析を行った結果、共感的教材構成と判断できたものは19事例、読解的教材構成と判断できたものは11事例となった。とくに、共感的知識習得型教材構成と判断できるものが30事例中、14事例と約半数を占めた。このことから、小学校社会科歴史学習の現状は、共感的教材構成が多く、読解的教材構成は少ないということが明らかになった。

それぞれの教材構成の性格を学習過程や主な問い、子どもに形成される知識の視点から判断すると、読解的教材構成、とくに、読解的知識活用型教材構成や読解的知識探究型教材構成による授業が望ましいことが明らかになった。

4 社会科における読解的歴史教材構成の意義

歴史学習では、資料を使って情報を獲得することが多い。そのため、子どもにそれらの資料を読解することにより、歴史に関する情報を獲得し、それをもとに課題を考えるという学習を構成すべきである。

また、資料を読解する際にも、知識の習得、活用、探究という過程をとることによって、情報を自分なりの視点をもって取り出し、他の事象と比較することで社会的背景や関係性を考え、現代社会へ転移させることができる。

歴史を通して社会を見る目を育てることができるということに読解的歴史教材構成の意義がある。

5 読解的歴史教材構成論による授業モデルの開発

これまでの研究成果をふまえて、読解的歴史教材構成による授業モデルの開発を行った。

○単元名 「江戸図屏風から見える江戸時代」

○指導計画(全18時間)

第一次	江戸幕府の政治制度と人々の暮らし(7時間)
第二次	260年間続いた江戸幕府(2時間)
第三次	江戸幕府の終わり(3時間)
↓	
第四次	現在の政治制度(6時間)

授業モデルでは、『江戸図屏風』を読解することを中心に、「知識習得」、「知識活用」、「知識探究」の知識の形成過程をふまえ、教材を構成した。単元全体を通して、「政治」「外交」「経済」「文化」「社会」というような子ども独自の枠組みをもとにして資料を読解し、考えるように指導することにより、情報が整理され、比較しやすく、筋道を立てて論理的に学習課題を考えることができる。

第二次、第三次の「知識活用」の段階では、江戸時代を学習するまでに学習してきた時代の具体的事象と、江戸時代の具体的事象を比較し、江戸幕府260年間の平和と江戸幕府崩壊についての社会的背景や具体的事象の関係性を明確にすることができる授業モデルを提示することができた。

第三次の「知識探究」の段階では、現代の政権交代の様子やその社会的背景、具体的事実の関係性をとらえていく。そして、歴史学習をもとにして現代へと転移させて探究することのできる授業モデルを提示することができた。

さらに、第四次では歴史学習を全て終え、政治単元に入った際に、各時代の政治制度を振り返りながら、現在の政治制度を学習するという、歴史学習の適応化を図る読解的知識探究型教材構成の授業を構想した。

IV 研究の成果と課題

本研究の成果は、まず、PISA型読解力をモデルにして小学校社会科歴史学習の枠組みを作り、それをもとに、授業実践事例を分類し、読解的歴史教材構成の性格を明らかにしたことである。そして、読解的歴史教材構成によるモデル授業を開発し、最終的に、知識を習得、活用する意義を明らかにし、読解的歴史教材構成論の提示ができたことである。

今後の課題は、本研究で提示したモデル授業を現場で実践し、授業の有効性について検証を進めるとともに、他の単元でも読解的歴史教材構成が適応するかを検証していくことである。

主任指導教官 原田智仁

指導教官 關 浩和